

普賢岳噴火災害からの復興 ～水無川周辺をフィールドワークする～

1990年（平成2年）11月に始まり5年にわたって続いた雲仙普賢岳噴火について、がまだすドーム（雲仙岳災害記念館）の見学や関連施設のフィールドワークを通して、災害の脅威と復興への歩み、そして人々の生活と自然の関わりを学ぶことができます。

学習のねらい

火山災害の脅威と復興の様子、火山との共生などを知ることができます。

◎施設案内

がまだすドーム（雲仙岳災害記念館）

普賢岳噴火災害について、見て触れてリアルに体感しながら、分かりやすく学習できる日本で唯一の火山体験ミュージアム。2018年4月のリニューアルによって、よりダイナミックに、そしてより分かりやすい展示内容になりました。



がまだすドーム（雲仙岳災害記念館） 〒855-0879 長崎県島原市平成町1-1
TEL 0957-65-5555 FAX 0957-65-5550

<http://www.udmh.or.jp>

◎フィールドワーク体験プログラム

①がまだすドームとその周辺

がまだすドームがある場所はもともと海で、土石流によって流れた土砂や石を埋め立てて、現在のようになりました。その場所に火山学習・観光施設として2002年に設立されたがまだすドームは、まさに災害からの復興を象徴する場所といえます。

周辺にはスポーツ文化施設の復興アリーナがあり、その傍らには1991年6月3日の火砕流で亡くなられた島原消防団12名の慰霊碑もあります。



②安中三角地帯のかさ上げ事業

水無川と導流堤に挟まれた安中三角地帯は、度重なる土石流によって大きな被害を受け、約7割の家屋が全半壊したといわれます。この地域を土石流被害から守るために、住民たちがかさ上げを発案し、国と県によってかさ上げ事業が進められました。

工事は1995年6月に始まり、5年の歳月をかけて完成しました。かさ上げの高さは平均6メートルで、かさ上げに要した土砂の量は526万立方メートルに達しました。



③われん川の再生

われん川は噴火以前は清流が流れ、水辺は地域住民の洗い場や憩いの場として利用されていましたが、1991年6月30日の土石流によって周辺家屋とともに被害を受けました。しかし、水源は奇跡的に残っていて、住民たちの手により再興されました。2000年からは川沿いに梅林の植樹も行われ、復興のシンボルとなっています。



④砂防ダム

火砕流や土石流から地域住民を守るため、水無川上流には砂防ダムが建設されました。1998年2月に完成した砂防ダム（1号ダム）は日本最長の870メートルの長さで、約100万立方メートルの貯砂能力を有します。この砂防ダムからは、災害の爪痕とともに災害からの復興の姿を見ることができます。



⑤まゆやまロード

島原市背後の眉山を迂回して、平成新山の間近を通る全長8キロメートルの道路。道路沿いからは、火砕流・土石流などの流れた爪痕や、砂防ダム群の姿を眺めることができます。さらにここからは、水無川とその周辺の自然が回復していく姿も見ることができます。



⑥平成新山ネイチャーセンター

平成新山が間近に迫る垂木台地に建てられた学習施設。火砕流によって荒廃した垂木台地の自然環境の回復の様子を観察することができます。



【推行人数・対象】3名以上～20名程度、小学生(中学年)～大人

【予約受付】一週間前までの予約が必要

【料金について】無料(常設展示の入館が条件)※今後有料になる可能性があります

所要時間

- ・がまだすドーム見学 1時間
- ・フィールドワーク（がまだすドーム周辺～安中三角地帯～われん川～砂防ダム～まゆやまロード～平成新山ネイチャーセンター） 1時間30分